２００５年世界選手権 日本開催決定！

世界選手権誘致委員会
委員長 落合公也

世界選手権
日本開催が
決定して
喜びあう
日本誘致団

**2005 年の夢が
実現にむけて
動き出した瞬間**

ＩＯＦコングレスにおける
世界選手権誘致活動の報告

**愛知県オリエンテーリング協会 世界選手県誘致委員会
委員長　落合公也**

国際オリエンテーリング連盟（IOF）コングレスは 2 年に一度いずれかの加盟国で開催される。コングレスでは総会，セミナー，各種委員会，オリエンテーリングイベントなどが一週間にわたって実施される。今年はオーストリア南部の都市，ライブニッツにおいて 7 月 30 日から 8 月 5 日の日程でおこなわれた。今年の特徴は，パークワールドツアーの一大イベント「チャンピオンズウィーク」が同時開催であったことだ。さらにこのＰＷＴのイベントは，いつものＰＷＴと違って，各国男女二人までが参加可能であるという点でも特別なものであった。そのおかげで，いつものコングレスでは各国の代表者と IOF の役員だけの参集であったが，世界各国のエリート選手もその地に居合わせることになった。

なお日本からの誘致団は総勢 14 名であった。JOA から 5 人。愛知から 3 人。IOF 委員で１人。PWT 参加で３人。博覧会協会から１人。国際観光振興会から１人。最後の二人はもちろんオリエンティアではありません。

最近 2 回のコングレスには日本から参加があったとはいえ,1 人か 2 人であったことを考えるとまさに一大事でありました。

1　現地入り

コングレス会期中に宣伝のためのブースを設置した。コングレス参加者を一人漏らさず捕まえるためにも，参加者が来たときにはすでにセットアップを完了しておく必要があった。ぼくはそのために 31 日に現地入りして，持っていった荷物をほどき，設営をおこなった。前日には海外広報部長の金井塚くんと PWT 選手の西尾くんが，ブースの細部について現地主管者と詰めの作業をおこなっていた。

2　ブースの設置

ブースのコンセプトワークは愛知県協会事務局長の新帯さんによる。そのコンセプトは七夕まつりだった。ささ，短冊，風鈴，提灯，うちわという七夕まつりにかかせないアイテムで装飾がおこなわれた。わずかに 3×4m の空間ではあるが，日本の文化を感じさせるには十分であった。

そのような装飾によって，日本・東洋文化への憧れを感じさせてブースへ誘い込み，世界選手権に関する日本のプランの掲示を読ませるのが、本誘致団の作戦だった。世界選手権以外の掲示としては、ホーカン・エリクソン（スウェーデン）を始めとする世界的なエリート選手の日本評や、日本の代表的なテレインの地図があった。さすがにオリエンティアが集まるところだけに，日本の地図への関心は高かった。

3 ロビーイング

コングレス最中のロビーイングは，ブースにきた人をつかまえて説明をすることと，移動時や食事時に要人を回ることの二つであった。日本のプランの説明するのだが、直接の話であるおかげで、日本の問題点・弱点が顕在化してきた。これは続いてのロビーイングやプレゼンで役に立った。

ロビーイングで忘れてはいけないのが，味方になってくれた国がよその国の代表に説得をしてくれたことだ。ロビーイングで応援団ができたのである。その応援団の数はどんどんと増えていった。

ここまでできたきっかけとして，アメリカ留学中の学生、金井塚友人くんの活躍を特筆ものであった。彼は，自ら申し出て，6 月末からヨーロッパに渡りコングレスまでの間，7 か国を訪問して，日本支持のお願いに回った。コングレス期間に入ってからも彼の英語力が大助かりだったことはいうまでもない。

4 ジャパンアワー

総会前日におこなわれたセミナーのティーブレイクの時間に寿司を参加者に振舞った。寿司は，ウィーンにある日本料理屋のシェフ、拝崎まさのぶさんに来て握ってもらった。

朝の 4 時から準備を始めた甲斐があって，それはおいしいお寿司でした。セミナーの参加者数には十分に足りる量が用意されたが、食べつくされた。

ジャパンアワーの寿司に人気が集まる

5 総会

(1)投票方法

投票方法は一回目の投票で過半数を獲得する国がなければ，上位二カ国による決戦投票であった。事前の IOF 事務局から得ていた情報では一発勝負で最多得票の国が勝ちというものだった。ところが前日になって，スウェーデンの誘致団から実際の投票方法を教えられた。誤情報だとたかをくくっていたら，総会当日の午前中に村越さんがそれは正しいことを伝えにきた。

(2)プレゼン

プレゼンは各国 10 分であった。あらかじめ時間厳守を言い渡されており、山ほどある訴えたいことを削るのには苦労した。

プレゼンの順番は，直前のくじ引きで，日本，ハンガリー，スウェーデンの順番であった。

日本は，日本での開催意義、コストを抑える努力をすることを訴えた。ハンガリーは訥々と低コストでの参加が可能であることを説明していた。スウェーデンの内容は、実績と，会的な認知度の高さをアピールするものだった。その方法は，まさに余裕のなせるところで，よく言えばスマートであり悪く言えば単なる見世物であった。

(3)投票

各国に一枚ずつ配布された投票用紙に 3 か国のうちの 1 か国を記入する。記入した投票用紙はすぐさま回収され，集計がおこなわれた。集計は会場の端でおこなわれていたのだが，ぼくの座っている位置からは集計の手元が確認できないでいた。

それほどの時間もおかず，壇上に座っている IOF 理事会メンバーの手元に集計結果が送られた。理事会による最後の確認を経て，会長のスー・ハーベイから発表があった。「スウェーデン 9 票，日本 19 票，ハンガリー9 票。日本が過半数を獲得したので，2005 年の世界選手権は日本に決定」

6 勝因

勝因は、アジア初となる日本開催が国際的なオリエンテーリングの普及にどれだけ貢献するかを説いてまわったロビーイングにつきるだろう。日本を支持してくれた国の中には，経済的な問題で選手を送れないかもしれないけれど、オリエンテーリングにとって必要なことである、といってくれる国が少なくなかった。世界の要求と日本のアピールが同調した結果であった。

7 最後に

開催が決まって帰国してから、どの大会においても貴重な時間を割いてくださり、発言の機会をいただけます。本当にありがとうございます。それだけ日本のオリエンティアの期待が大きいということでもあると思います。

これから始まる秋のシーズンでは，さらに多くの人に世界選手権のことを知っていただけるように宣伝をさせていただこうと考えています。

発足当初は誘致活動のグループを単に「発起人会」と名乗っていましたが、5 月の望郷の森イベントを契機に「ドリーム 2005 プロジェクト」と改名しました。名称のとおり，世界選手権の開催は日本のオリエンティアにとって夢でありました。誘致が決定した直後は夢を掴み取ったというような気がしていました。でも冷静になって考えてみると，大会の成功をもって正に大願成就だと思うようになりました。だからまだまだこれからドリームを追いかけます。

一緒に夢を追いかけてくれる人を募集しています。世界選手権の開催は我々にとって未知の領域です。これまでの世界選手権の実際から地図はできているといえるでしょう。ここにもオリエンテーリングの姿を見られそうです。

まだまだかき足りないこともあります。今回は簡単な報告でお許しいただき，あらためて詳細な報告をさせていただきたいと思います。

最後になりましたが，誘致活動においてご協力，ご声援をいただいた多くのオリエンティア，クラブの方々に重ねてお礼を申し上げます。